

矢作川探訪マップ

私たちの母なる川、矢作川。その魅力を十分に楽しむために、川を見ながら歩ける散策コースと川を一望できるスポット、川への興味がふくらむさまざまな施設をご紹介します。

0 500m

- P 駐車場
- WC トイレ
- 水辺愛護活動地
- ウォーキングコース

BコースとCコースには、江戸時代から大正期にかけての舟運が盛だった時代、多くの土場(川湊)があり、交易の要衝地として栄えました。矢作川の歴史を感じられるコースです。

Aコースを含む平戸橋の上流約4kmの区間は勘八峡と呼ばれ、1927年に愛知新十名所に選ばれました。勘八峡の大部分は2年後に越戸ダムに水没しましたが、ここを歩けばかつての面影を偲ぶことができます。

DコースとEコースは、豊田の中心市街地から最もアクセスがよく、豊田市が親水性の高い水辺づくりを進めているエリアです。まちなかを流れる川に天然アユが上り、緑豊かな川辺にたくさんの生き物たちがすみ、ちょっとした「奇跡」を体感してください。

豊田市の水辺愛護活動
 豊田市内では矢作川および市内河川で、25の「水辺愛護会」(会員数約800人・2023年4月1日現在)とNPO矢作川森林塾など複数の市民グループ・企業が河畔林の保全活動を行っています。高度経済成長期以降、人が川に近づくなくなり、川辺は竹や木が生い茂った暗い林となりました。そのような場所で、竹や木の間伐、草刈り、ごみ拾いなどを行って、川が見通せる景観をつくり、川に近づける親水空間を維持して川と人を結ぶ大きな役割を果たしています。

19 野見山展望園地




ここに設置された展望台からは約180度のパノラマが楽しめます。矢作川にかかる竜宮橋、鶴の首橋と、豊田市の中心市街地が見渡せます。

20 水源緑地



市内有数の花見スポット。冬は多くの野鳥が見られます。名前の由来は、安城市を中心とした碧海台地に農業用水を供給し、「日本のデンマーク」を築いた明治用水の取水口がある土地を「水源町」としたことによります。

21 明治用水旧頭首工



川から用水を水路に引き入れるための施設。現在の頭首工ができる前の1909年に人造石で造られました。船を通す閘門があります。土木学会選奨土木遺産となっています。

Bコース：平戸橋～籠川合流点 (右岸)

Cコース：古岸水辺公園～百々の水辺 (左岸)

Eコース：高橋～御立公園 (左岸)

Dコース：籠川合流点～久澄橋 (右岸)

Aコース：平戸橋公園 (右岸)

4 平戸橋公園



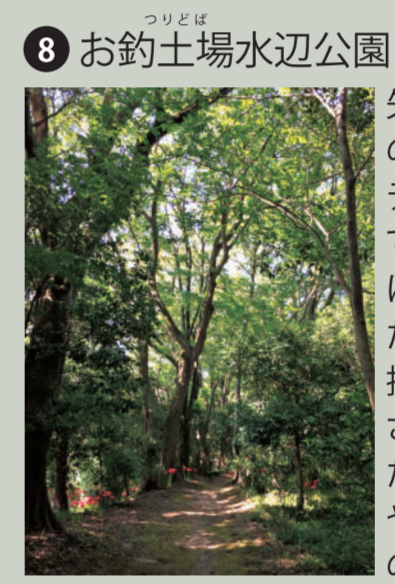
春の桜、秋の紅葉の名所として古くから知られています。この付近は勘八峡と呼ばれる景勝地でした。勘八の名は、江戸時代に近隣の村々を荒らし回った盗賊の名に由来します。

5 波岩水辺公園



平戸橋直下の右岸にある、川岸に露出した大きく平らな花崗岩の岩盤が「波岩」です。白い帯の伝説があります。

7 旧平戸橋の碑



様々な低木や野草が見られます。土木学会景観デザイン賞優秀賞を受賞しました。

10 古岸水辺公園



1992年、日本で初めて近自然工法による水制工(護岸のための工作物)が造られたことをきっかけに、竹林を伐採して整備されました。土木学会景観デザイン賞優秀賞を受賞しました。

6 石倉水辺公園



増水時に水が上流側の波岩を乗り越え、ここの岸を直撃するのを防ぐためにつくられた護岸設備「石倉」があります。

9 表州水辺公園



11 百々貯木場

上流から流された木材を引き込み、水の中で保管する施設です。大正～昭和初期に使われました。豊田市有形文化財、土木学会選奨土木遺産となっています。

12 百々の水辺



14 籠川合流点



16 豊田スタジアム



2001年に建てられた球技専用スタジアムで、建築家の黒川紀章が豊田大橋とともに設計しました。名古屋グランパスのホームスタジアムの一つであり、2019年にはラグビーワールドカップの試合会場となりました。

13 流れ橋跡

ワイヤーでつないだ橋桁を洪水の時に流し、その後人力で復旧する様式の橋です。戦後、越戸町と百々町を結ぶ歩行者専用の橋として架けられ、1959年に伊勢湾台風で壊れるまで使われていました。

15 千石公園



17 矢作川豊田防災ステーション

洪水時の水防活動や緊急復旧活動の拠点として、国土交通省の河川防災ステーション整備計画に基づき、水防管理者と河川管理者が一体となって整備しました。

18 御立公園



2013年に水害防止のため掘削が行われ、竹林が取り除かれて、エノキやヤナギなどの高木の河畔林になりました。湧水を利用したせせらぎも作られています。